

## 致命的な誤り

### 【聖書】エレミヤ書 42 章 1～6 節

カレアの子ヨハナンとホシャヤの子エザンヤをはじめ、すべての軍の長と民の全員が、身分の上下を問わず、訪ねて来て、預言者エレミヤに言った。「どうか、我々の願いを受け入れてください。我々のため、またこの残った人々のために、あなたの神である主に祈ってください。御覧のとおり、大勢の中からわずかに、我々だけが残ったのです。あなたの神である主に求めて、我々に歩むべき道、なすべきことを示していただきたいのです。」

預言者エレミヤは答えた。「承知しました。おっしゃるとおり、あなたたちの神である主に祈りましょう。主があなたたちに答えられるなら、そのすべての言葉をお伝えします。」すると、人々はエレミヤに言った。「主が我々に対して真実の証人となられますように。わたしたちは、必ずあなたの神である主が、あなたを我々に遣わして告げられる言葉のとおり、すべて実行することを誓います。良くて悪くても、我々はあなたを遣わして語られる我々の神である主の御声に聞き従います。我々の神である主の御声に聞き従うことこそ最善なのですから。」

### 43章 1～2 節

彼らの神である主がエレミヤを遣わして伝えさせたすべての言葉を、彼が民の全員に語り終えたとき、ホシャヤの子アザルヤ、カレアの子ヨハナンおよび高慢な人々はエレミヤに向かって言った。「あなたの言っていることは偽りだ。我々の神である主はあなたを遣わしていない。主は、『エジプトへ行って寄留してはならない』と言ってはおられない。」

### 【序】世界バプテスト祈禱週間の起り

世界中のバプテスト教会で世界伝道について祈り合う**世界バプテスト祈禱週間**が、今日から来週の日曜までの8日間守られます。この祈禱週間の起源は、アメリカ南部バプテストから **1873 年**に**中国**に派遣された最初の婦人宣教師**ロティームーン**の呼びかけによります。

彼女は 40 年間中国の女子教育と伝道に生涯を捧げました。「もっと宣教師を送って欲しい。30 人欲しいがせめて 2 人を！」と幾度も本国の南部バプテスト連盟に訴えましたが、国内の伝道で手一杯と反応がありません。そこで彼女は直接諸教会の婦人達に**世界伝道を支える婦人会**を作って、クリスマス前の 1 ヶ月前に献金を募って欲しいと訴えました。するとそれに応える婦人たちが各地で立ち上がり、連盟にも婦人部が生まれ、全国的に祈禱週間と取り組むようになったのでした。

1912 年中国は**大飢饉**に見舞われ、毎日大勢が餓死していきました。彼女は自分の預金を全て引き出して救援に回しました。そして年老いた自分の食べる分も飢えている人に回そうと**帰国を決意**し、その帰国途中 **1912 年のクリスマスイブ**に、**神戸港**に停泊中の船内で **72 才**の生涯を閉じました。ゼロになった彼女の預金通帳には「私のような**淋しさ**を味わう宣教師が二度とおこらぬように！」と書き遺されていたそうです。

今年の日本国内の献金目標は 4900 万円で、ただ今五十嵐桂子さんが説明して下さったように、ルワンダの和解の働き(佐々木和之師一家)・シンガポール国際日本語教会・アジア伝道協力(伊藤世里江師)インドネシアのセマラン神学校教師(野口日宇満師一家)・カンボジア農村伝道(嶋田和幸師一家)・インドの「プリ子どもの家」の働き等に献げられます。その他に福岡新生教会が独自に支えている中国奥地イスラム伝道(李聖徳師一家)、加藤個人が支援しているマニラの日比聖書教会(横川宣教師)があります。私たち夫婦もこの献金で 1995 年から 10 年間シンガポールに派遣されました。

当教会の献金目標は 25 万円です。祈りと献金にどうぞご協力下さい。

## [1]エジプトへ逃げ出そうとした人々

さて今日は 10 月に入って読み始めた旧約聖書の**エレミヤ書**の学びの**最終回**です。**イスラエルの民の王国**は、ソロモン王の子どもの代に、南北に分裂しました。紀元前 922 年のことです。そして先ず**北王国**が 200 年後の**紀元前 721 年**にアッシリア帝国に滅ぼされてしまいました。

**南王国**はそれから 134 年後の**紀元前 587 年**にバビロン帝国に滅ぼされました。エレミヤは南王国が滅びる時代に 40 年以上にわたって、一貫してエルサレムの陥落と神殿の崩壊、バビロン捕囚を預言し続けた預言者です。

さて南王国最後の王**ゼデキヤ**は、目の前で王子たちを殺された後で、両目をつぶされ、家来を始め、主だった民全員と共に、バビロンに連行されました。エルサレムの**都も神殿も破壊**されてしまいました。しかしバビロン王が、残留した貧しい民を治めるために総督**ゲダルヤ**を任命したことを聞いて、近隣諸国に逃げ散っていたユダヤ人たちが避難先から戻ってきました。

ところが大変な事態が突然起こりました。近隣のアンモン王が送り込んだ暗殺者イシュマエルによって**総督ゲダルヤが殺された**のです。その上総督を護衛していた軍の長ヨハナンと部下たちは、**暗殺者**を逮捕してバビロン王に差し出そうとしたのに、取り逃がしてしまったのです。ヨハナンとユダに残った人々は、バビロン王の怒りと報復を恐れて、**エジプト**に逃げることにしました。

そして彼らは、**エレミヤ**を訪ねて来て言いました。「御覧のとおり、大勢の中からわずかに我々だけが残ったのです。あなたの神である主に求めて、我々に**歩むべき道、なすべきこと**を示していただきたいのです。」「わたしたちは、必ずあなたの神である主が、あなたを我々に遣わして**告げられる言葉**のとおり、すべて実行することを誓います。」

10 日たって主の言葉がエレミヤに示されました。「この国に**留まりなさい**。主は必ず救って下さる。バビロンの王は憐れみを示して、この土地に住むことを許すだろう。**エジプトに逃げた方**がかえって**剣と飢え**にとりつかれて、**死ぬことになる**。生き残る者はひとりもない」。

ところがエレミヤの言葉を聞くと、彼らは口々に言ったのです。「あなたの言っていることは偽りだ。我々の神である主は、あなたを遣わしていない。主は、『エジプトへ行って寄留してはならない』と言ってはおられない。」

そしてヨハナンは、ユダの残留民すべてとエレミヤと弟子バルクをも連れて、エジプトに逃げたのでした。エレミヤはエジプトでしばらく預言活動をして死にました。伝説によると殉教の死だったと言われていました。皆さん、これは一体どうしたことでしょうか。

## [2]致命的な誤り

ヨハナンたちは、自分たちの歩むべき道、なすべきことを示して下さるように、神に祈って欲しいとエレミヤに頼みました。ところが答を聞いたら、それはおかしい。神がそうおっしゃるはずはないと言って、エレミヤに聞き従わなかったのです。それなら最初から祈ってくれと頼まなければよかったのではないのでしょうか。

恐らくヨハナンたちの心は、エレミヤに頼みに来た時には殆ど決まっていたのです。それでも今一つ不安があって、神からも「それでよい。そうしなさい」と言ってもらいたかった——自分たちの行動が間違っていないという保証が欲しかったのでしょ

う。南王国を滅ぼした最後の王ゼデキヤも、時折エレミヤの意見を求めています。37章3、17節。38章14節をお読み下さい。エレミヤの答はいつも同じでした。「バビロン王によって都は占領される。降伏するなら生き残る」。しかし王はいくら神の言葉を聞いても、聞き従いませんでした。

私たちは誰でも、自分の判断がそれでよいかどうかについて、不安を持っています。神の声が気になります。神を信じない人でも、正しい判断を知りたいという思いは持っています。助言を必要とします。でも助言を受け入れてそれに聞き従うかという、ほとんどの人はそうではないのです。ゼデキヤ王を見て下さい。何度聞いても聞き従わず、遂に自分も国も滅ぼしてしまいました。

「よい」という返事だけを聞きたくて相談する——それは相談ではありません。神の意見でも退けてしまう心で祈っても、それは祈りではありません。エレミヤはヨハナンたちに「あなたたちは致命的な誤りを犯そうとしている」(42:20)と警告しています。そうです。自我に固執するのは致命的な誤りなのです。

総督を殺されたバビロン王が、激怒して報復するに違いない——ヨハナンたちの恐れは、世の常識、確率の高い予想です。だからエジプトに逃げようと皆も恐れにかられて、軍の長ヨハナンについてきたのです。でも神は「それはよくない。間違っている」とおっしゃいました。この地に留まっていて、果たして大丈夫なのでしょうか。経験や常識に基づいた人間の判断と神の判断と どちらを取るか——あなたはどちらを取りますか？

初めにヨハナンたちは言いました。「良くて悪くても主の御声に聞き従います。それこそが**最善**なのですから」。そうです。全能者であり正義に立つ**真実の愛の神の意志・判断・決定**こそ、私たちにとって**最高最善**です。それに聞き従うべきことを、彼らは十分に知っていたのです。でも結局は**自我を押し通して**しまいました。私たちの中にある**建前と本音のギャップ**——どうしたら無くすことが出来るでしょうか？

### [結]十字架の祈り

イエス・キリストは、逮捕されて十字架につけられる直前に、ゲッセマネの庭で心を注いで祈られました。「**アッバ父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかしわたしの願うことではなく、御心に適うことが行われますように**」(マルコ 14:36)。「アッバ父よ」とは「**パパ、お父ちゃん**」という言葉です。30才を過ぎた主イエスが、幼児のような親密さをもって、父なる神に祈っておられます。

そうです。父なる神は何でもお出来になる**全能の神**です。十字架以外の方法でも人をお救いになれるお方です。しかし主イエスは「**御心に適うことが行われますように**」と祈られました。そして神が十字架の死による救いをお示しになると、そのお言葉に聞き従って、十字架に架かって死ぬ道を歩まれました。

そして十字架の上で、「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」と、イエスを妬んで殺そうとする**自我を、押し通す人々**のために祈りつつ、その罪を贖うために死んで下さいました。これこそが**自我を捨て切った信仰の歩み**ですね。

神の御心に聞き従うべきなのに、**自分の我を押し通してしまう自分の罪を自覚して**、十字架の主**に救いを求めて、罪を贖っていただきましょう**。パウロは言いました。「わたしたちは皆、——主と同じ姿に変えられていきます。これは**主の霊の働き**によるのです」(Ⅱコリント 3:18)。**御心に適うことが行われますように**と祈りつつ、十字架について私たちの救いを祈ってくださる救い主の霊、聖霊が私たちの中に働く時に、私たちも**自我を捨てて、神の御心に従う道を歩む**ことが出来るようになっていくのです。イエス・キリストと同じ姿に変えられていくのです。これこそが**私たちを救う福音**です。

復活された主イエスは、主の復活さえ疑う者もいた弟子たちに「**全世界に行って、全ての造られた者に福音を宣べ伝えなさい**」(マルコ 16:15)とお命じになりました。十字架に死んで下さったイエス・キリストは、**世界中の全ての人が、どうしても十字架の福音を聞く必要があると熱望**しておられたからにほかなりません。

主の熱望しておられるお言葉を聞く私たちは、世界中の人が、十字架の福音を聞いて下さるように、**ロティームーンを次々と送り出さなければなりません**。またその働きのために、**精一杯の献金**を捧げて参りましょう。

祈ります： 主なる神さま、ゼデキヤ王もヨハナンたちも、あなたの言葉を聞きながら、自我を押し通して滅んでいきました。主イエスさまは、「この杯をわたしから取りのけてください。しかしわたしの願うことではなく、御心に適うことが行われますように」と祈りつつ、御心に従って十字架について、死んでいかれました。私たちは、自我を押し通して、救い主でも十字架にはりつけてしまう罪深さに支配されています。主イエスさま、あなたの祈り「わたしの願うことではなく、御心に適うことが行われますように」を、私も祈る者にしてください。あなたの御霊・聖霊を送って、この私をあなたと同じ姿に変えていってください。世界中の人々にあなたの福音を伝えていくために、宣教師として立つ働き人をお起こしください。また祈り献金していく信仰をお与えください。救い主イエス・キリストの御名によって、お祈りします。 アーメン